

特別公開「雛と雛道具」展示作品リスト

NO.	名称	数量	年代	所蔵
1	たちびな やちよしょう 立雛（弥千代所用）	1対	江戸時代後期	本館蔵（井伊家伝来資料）
2	くろうしぬりたちばなもんひなどうぐ やちよしょう 黒漆塗橘紋雛道具（弥千代所用）	85件	江戸時代後期	本館蔵（井伊家伝来資料）
3	くろうしぬりあおいたちばなもんかご やちよ こんれいちょうど 黒漆塗葵橘紋駕籠（弥千代の婚礼調度のうち）	1棹	江戸時代後期	本館蔵（井伊家伝来資料）
4	こきんびな つけたり ひなどうぐ 古今雛（附 雛道具）	1揃	昭和時代前期	本館蔵 （山田喜美子氏・知田淳子氏寄贈）
5	こきんびな 古今雛	1対	江戸時代後期	本館蔵
6	こきんびな 古今雛	1対	明治時代	本館蔵（森嶋美代子氏寄贈）
7	こきんびな 古今雛	1対	江戸～明治時代	個人蔵
8	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵（青柳和子氏寄贈）
9	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	明治33年	本館蔵（山本高嗣氏寄贈）
10	ひなごてんかざ 雛御殿飾り	1揃	昭和時代前期	本館蔵（山田米子氏寄贈）

写真解説

*番号は作品リストの番号と一致します。

1 立雛 (弥千代所用) 1対

男雛 高 30.6cm 女雛 高 24.7cm

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

雛段などに立てかけて飾る立雛という種類の雛です。衣装は紙製で、室町時代頃の形式の装束となっており、男雛は小袖と袴を着け、女雛は小袖に細帯を締めています。まるで団子に目鼻をつけたかのような顔は、次郎左衛門雛という雛の形式に則ったもの。あどけない顔立ちが愛らしい一対です。



2 黒漆塗 橘紋雛道具 (弥千代所用) 85件

江戸時代

本館蔵 (井伊家伝来資料)

貝桶や三棚、挟箱など85件からなるミニチュアの調度類。弥千代の婚礼に際し、婚礼調度を模して詠えられました。井伊家の家紋である橘紋と共に、根引きの小松、笹竹、梅枝の模様が描かれ、全体に統一感ある意匠となっています。



(写真は一部のみ)

黒漆塗 橘紋雛道具のうち 駕籠・長柄傘

駕籠 高 31.5cm

長柄傘 高 45.0cm

弥千代の婚礼調度として伝わる駕籠と長柄傘のミニチュアです。

駕籠は黒漆塗に豪華な金蒔絵が施された女乗物と呼ばれるもので、高貴な女性専用の乗り物です。実物に比べると、横幅が狭いやや縦長の形であり、大きさは約3分の1。随所に銀の飾金具が施され、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。

長柄傘は、日よけ、雨よけのために差し掛けるものです。

この展示では、実物の駕籠も展示します。実物と見比べることで、ミニチュアの精巧さをじっくりご覧いただくことができます。



3 黒漆塗 葵 橘 紋 駕籠 1 棹

縦82.3cm 横112.2cm 高106.5cm

江戸時代後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

弥千代の婚礼調度として調えられたかご駕籠です。黒漆塗に井伊家の家紋の橘紋と、松平家の家紋の葵紋が、松竹梅の模様とともに金蒔絵きんまきえで表わされています。随所に飾り金具が付けられ、内側には鮮やかな彩色で花鳥画が描かれています。



5 古今雛 1 対

男雛 高 44.5cm

女雛 高 43.4cm

江戸時代末期

本館蔵

男雛と女雛の一对。公家風の衣装をまとだいりびなう内裏雛の一種で、江戸時代明和年間 (1764~1772) に江戸の人形師原舟月はらしゅうげつが創始した古今雛こきんびなと呼ばれるものです。造作は細やかに整っており、目元や口元、髪かみの生際などの細部を描き出す柔らかな筆遣いは、制作者の確かな技量を感じさせます。

